

建設アスベスト東京1陣東京高裁判決

国を8度断罪！歴史的判決 「一人親方等」も全員救済

原告の命ある内の早期解決を 九州建設アスベスト訴訟 ニュース

福岡県建設労働組合
〒815-0031
福岡市南区清水1-22-9
TEL092-511-4703
FAX092-511-4752



国に勝利（東京高裁）



勝つまで団結して頑張ろう

3月14日、建設アスベスト東京1陣東京高裁で国の責任を認める（同種の裁判で8連勝）判決が言い渡されました。さらに、裁判所が今まで「一人親方等」については労基法上の労働者でないことを理由に国の責任を認めませんでした。初めて、一人親方を労働者と同等とみなして全員救済（国の責任を認定）されました。企業責任は、残念ながら認められませんでした。

「やったー」東京高等 しく不合理で違法として 裁判所に大歓声が上がりました。 違法期間も一審より6年 遡らせ、国を断罪し、さ 裁判所は、建材への適 切な警告表示（現場表示 で認められなかった「一 含む）を怠ったことを著 人親方等」（中小事業主

福岡で連帯集会

も）への責任も建設現場において重要な地位を占めていて重要な社会的事実、また労働者と同等の保護される利益を持つものと認め、国の責任を認めました。

今回の「一人親方等」

への国の責任を認める判決は、今まで裁判所は、労基法に定める労働者じゃない事を理由に、国の責任について認めませんでした。その判断をひっくり返す歴史的判決でした。「一人親方等」と労働者が混在する全国の原告団にとっても朗報です。しかし、残念ながら企業責任については、今回認められませんでした。

博多駅バスターミナルで、東京高裁での判決に呼応して連帯集会が開催されました。九州原告団を代表してあいさつに立った1陣原告の柴田さんは、「お父さんが亡くなっ

今後の建設アスベスト訴訟日程

- 3月19日 九州建設アスベスト訴訟 第10回 期日
- 3月22日 大阪高裁（大阪ルート）結審
- 3月23日 14時〜全国決起集会（東京日比谷野外音楽堂）
- 6月11日 九州建設アスベスト訴訟 第11回 期日

て今年7回忌を済ませた。

被告企業を回っていつも思うのは、立派なビルで働けるのは、アスベストで被害を受けた労働者が居たからだ。そのことを

対応した会社の人たちについて言っている。企業の責任を追究したい」と発言しました。

山本弁護士は、「よその地域の裁判に合わせ

て福岡で集会をするのは5回目。こういう集會をやって良かったと思う。

一歩ずつ前進している。成果もあがってきた。大勢で判決結果を聞けることに励まされている」とあいさつしました。

判決の見どころを田中弁護士から報告があった後、判決が予定されている15時に、現地に派遣されている福建労働部の矢野書記次長が東京高裁で

の判決「旗だし」を映像に収録し、その映像を参加者全員でライブ視聴しました。

国に8度連続勝利し、「一人親方等」についても全員救済の報に多くの参加者が涙を流し喜びました。

「一人親方」として原告団に加わっている九州訴訟の1陣原告の茨木さんは「『一人親方等』が認められたことは今後の励みになる」と涙ながらに話されました。同じく夫が「一人親方」で遺族原告として頑張ってきた石原さんは「6年間頑張ってきた。これからもがんばる」など、涙を流して喜んでいました。

最後は、岩城弁護士による万歳三唱がおこなわれました。

九州建設アスベスト訴訟

2陣提訴行動

2月26日、九州建設アスベスト訴訟団は、福岡地方裁判所に第2陣の提訴をおこないました。その日は、諫早干拓訴訟の期日の日と重なり諫早干拓訴訟団と「お互い裁判を頑張ろう」と門前でエールを交わし、提訴行動前の13時から門前集会をおこない、福岡地方裁判所に提訴しました。



1陣に続いて勝つまで頑張る

門前集会では、1陣原告を代表して柴田遺族原告が「提訴して6年、皆さんの支援が頼り。引き続き支援を」と呼びかけました。そして2陣原告が一人ひとり紹介され、1陣原告からそれぞれ2陣原告に激励の意味を込めタスキを渡しました。

全国的に注目される闘争
マスコミ各社かけつける

門前集会から多くのマスコミが取材に駆け付け、国に7連勝（後に8連勝）した建設アスベスト訴訟がいま全国で注目されていることがわかりました。

下川福建労委員長が送り出し組合の代表で、「これからは本番。ただ真面目に働いていただけなのに被害にあい残念。」

提訴報告集会ひらく

提訴行動終了後、TKPガーデンシティ天神8階で報告集会が開催されました。最初闘い半ばで亡くなった原告を偲び、全員で黙とうを捧げました。



2陣原告代表で決意を述べる丸山遺族原告

国と企業の責任は明白。これからもっと被害者は増える。政治解決も求めていく」とあいさつしました。

続いて山本弁護士があいさつに立ち「新たに12人の闘う仲間を迎える事ができた。もうすでに9人が亡くなっており、悲惨な被害だ。次々と起こる被害を放ってはおけない。責任を追及していく。心強い参加（第2陣原告）を得た。国は全国で7連敗（その後8連敗に）しているが、先日関西の京都ルートの高裁結審で、国は裁判所の和解勧告を即座に受けつめた。企業責任も認められてきており、解決に向かっていく。弁護士も皆さんと一緒に頑張ってほしい」と決意を述べた。

国と企業を断罪し
基金を創設させる

新たに2陣弁護士事務局長になった田中謙弁護士が「アスベスト問題が終わっていないことを国と企業に解らせるために2陣提訴したことを説明。国会では『働き方改革』が議論されているが、国はどんな働き方をしても健康で安全に働けるその仕組みを確立していない。人（裁判所）から言われて、謝るのは真剣に謝っているとは言えない。真剣に反省しているのであれば、裁判所から（判決）言われる前に謝るのが真の反省。国と企業を断罪し基金を創設させるそのことも2陣を闘う目的。そのために手をつないで頑張ろう」と2陣提訴の意義について発言しました。

2陣代表 夫の無念
はらすため原告に
2陣原告がそれぞれ決意をのべたあと2陣原告を代表して丸山清子遺

族原告が「夫は塗装工をしていたが治療の効果なく66歳で亡くなった。夫の無念を晴らすため頑張る」と決意表明されました。

第2陣第1回期日
2018年 **7月2日** (月)
福岡地方裁判所

見がおこなわれ数人のマスコミ関係者から質問が出されました。1陣原告からのあいさつで石原遺族原告は、「2陣の方の話を聞いていて自分と重ね合わせ涙が流れた。1陣で陳述した居川さんが亡くなった。志半ばで亡くなるというのは残念だったと思う」とあいさつをしました。その他木村熊建労委員長、道下県労連事務局長、長野福建労アスベスト闘争本部長、土井アスベスト支える会会長の連帯のあいさつで閉会しました。